



花かつみの里 2024



No. 31

元気な子どもたち



11月下旬から、気温の低い日が多くなり、寒い冬の訪れを肌で感じています。

学校でも暖房器具の使用を始め、適温の中で教育活動ができるようにしています。

そのような中でも、子どもたちは休み時間になると校庭に出て、なかよく遊んでいます。さすが片平っ子！みんな元気ですね！



ユーモアのセンスを！



ユーモアのセンスについて、次のような話を聞いたことがあります。

その人は、新婚旅行で、飛行機に乗って海外に行くところだったそうです。

飛行機に乗り、自分たちの座席を探していました。チケットの座席のシート記号見ると、H席とJ席だったのです。

HとJでは、離れた席になってしまいます。せっかくの新婚旅行が……。

困ってしまった、というより、おこってしまったその人は、近くの客室乗務員さんに言いました。

「……(前略)……、これではせっかくの楽しい旅行が台無しです。何とかしてください！」

さて、客室乗務員さんは、どうしたと思いますか？

客室乗務員さんは、一瞬考えて、にっこりと笑って次のように言いました。

「HとJですか。2人の間に愛(1)がありますね！」

その人は、おこっていたことも忘れ、ぼかんとしてしまったそうです。

実際は、その飛行機には「1(いち)」と間違えないように「1(アイ)」という席はなく、HとJはとなり同士だったようです。



私がこの話を聞いたのは、30年以上も前のことです。すごく印象に残っているので、機会があるごとに、いろいろな人に話しています。

人は、時にはもめごとを起こします。それは、感情的になっている人に対して、感情的に対応するからだと思います。

当時はスチュワーデスと呼ばれていたと思いますが、この客室乗務員さんの機転の利く対応にとっても感動しました。

私もこのように、機転の利いたユーモアのセンスをもった人になりたいなといつも思っています。

本校の子どもたちにも、人の心を温かくするような(けして人をバカにしたり、下品なことを言ったりすることではない)ユーモアのセンスをもった人に育ててほしいと願っています。

